

2026年度
第52回 北海道指定図書 読書感想文コンクール

北海道指定図書

●北海道の先生がおすすめする本を読んで、読書感想文を書こう！

北海道学校図書館協会

小学校低学年

上段：選定部によるコメント
下段：メーカーによるコメント(e-honサイトorメーカーサイトより)
発行年月 ISBNコード

<p>はじまりは わざとじゃない！</p> <p>かさい まり/作 北村 みなみ/絵</p> <p>くもん出版 1,540円</p>		<p>同じ出来事でも立場が変わると感じ方も見え方も変わるもの。子どもたちのやり取りや心情描写に自分や相手の思いに気づくことができる物語。</p> <p>わざとぶつかったのに、「わざとじゃない！」と言ってしまった、つばさ。ぶつかられたるいは、いつもつかかってくる つばさにイライラ。そんな二人に、近所のスーパーでちょっとした事件が起こり……。クラスの中で孤立しそうになる つばさと、少しずつ つばさの気持ちが分かかっていく。二人は友だちになれるかな？ 大人が手を出すのではなく、子どもたち自身のやりとりの中で、相手の気持ちに気づいたり、自分の思いを伝えたりしながら、少しずつ前に進んでいきます。</p> <p>2025年11月 978-4-7743-3905-4</p>
<p>ある星の汽車</p> <p>森 洋子/著</p> <p>福音館書店 1,980円</p>		<p>挿絵が物語をリードしていく。列車でひとりの男の子が会おうのは、かつて地球に存在した絶滅種だった。想像力が果てなく広がる一冊。</p> <p>【絶滅してしまった動物たちを描いた創作絵本】広い大地を走る汽車。汽車には、ドードーの紳士、卵を大事に抱えたオオウミガラスの夫婦、リョコウバトの団体客など、たくさんの乗客が乗っています。その中、お父さんと旅をする男の子がひとり。男の子は車内をまわって、動物たちと会話をしたり、つぶやきを聞いたりします。しばらくすると、汽車が駅に止まり、ドードーの紳士が下車していきます。その後も駅に着くたびに、乗客がひとりずつ降りていき、徐々に車内は寂しくなっていきます。</p> <p>2025年10月 978-4-8340-8874-8</p>
<p>ねこきちの てぬぐい</p> <p>かとう まふみ/作</p> <p>講談社 1,650円</p>		<p>子猫のねこきちの手ぬぐいになった「まめしほり」。よだれや汗がついたり、体を洗ったりいつも一緒に過ごしていたが…。様々な役に立つ手ぬぐいの循環サイクルが学べる絵本。</p> <p>豆粒のような丸い模様がずらりと並んでいるのが「まめしほり」という絞り染めの手拭いです。頭にかぶる、体をふく、物を包む…使いきって、燃やされて、灰になっても役に立つ！江戸の暮らしはSDGsだった！？</p> <p>今日からねこきちの手ぬぐいになった「まめ」。汗をふいたり、物を包んだり、いつもねこきちと一緒に過ごしていたのですが……。手ぬぐいをきっかけにして、物を無駄にしない心や、江戸時代の循環サイクルなどが自然に学べる絵本。</p> <p>2025年6月 978-4-06-537611-9</p>
<p>きをそだてる きこりのきこさん</p> <p>室井 さと子/作</p> <p>新日本出版社 1,650円</p>		<p>助けあって苗木を植え、草を刈り、枝を切り、光と風の通りをよくする。選んだ木を切る。そんな山の仕事を楽しく伝えてくれる。</p> <p>きこりの「きこ」さんは、きを育てています。苗木を山に植え、育ったきを、木材として出す一年。山仕事仲間と、助け合って草刈りや、きの枝切り、台風がきたら後始末。美しい紅葉が過ぎ、きを切り倒します。山仕事のあれこれを、楽しく伝えるおしごと絵本です。</p> <p>2025年1月 978-4-406-06823-9</p>
<p>小学校中学年</p>		
<p>ひろい海に ぼくたちは生きている</p> <p>長倉 洋海/作</p> <p>アリス館 1,980円</p>		<p>「海は、だれの持ち物でもない。みんなのもの」。海に暮らす様々な人々に出会い、海の恵みと境界のない広がりを感じさせてくれる写真絵本。子どもたちの表情がまぶしい。</p> <p>「海は、だれの持ち物でもない。みんなのもの」。海に暮らす様々な人々に出会い、恵みと広がり、境界のない生き方について、気づいていきます。</p> <p>2024年12月 978-4-7520-1122-4</p>

<p>みんなをつなぐ アイヌの糸</p> <p>横塚 眞己人/写真・文</p> <p>ほるぷ出版 2,035円</p>		<p>アイヌの伝統的な布「アットウシ」を家族と一緒に長年作っている二風谷の貝澤さん。取材の中で見えてきたのはアイヌの歴史や文化、周りの人との絆だった。</p> <p>アイヌの伝統的な布「アットウ？」は、じつは木の皮から作られています。固い木の皮から、いったいどうやって、やわらかな布を作るのでしょうか。北海道・平取町二風谷で半世紀以上アットウシ織りを続ける貝澤雪子さんを訪ねて取材をしたところ、見えてきたのは、ひとりの女性が激動の時代を生きぬいてきた歴史と、地域をあげて行われているアイヌ文化の伝承活動、そして何よりも、雪子さんを中心にした家族や親しい人たちとのきずなでした。</p> <p>2025年5月 978-4-593-10426-0</p>
<p>知ったかぶりを した日から</p> <p>かさい まり/作 おとない ちあき/絵</p> <p>岩崎書店 1,430円</p>		<p>東京から北海道に転校してきた風子の軽い気持ちで言った一言が大変なことに…。知ったかぶりを反省して成長していく物語。</p> <p>東京から地方に越してきた風子は、有名人に会ったことがあるとクラスメイトについてしまう。その本人が撮影で小学校に来ると知り、何とかしようと奔走するのだった。つい、軽くいってしまった嘘が、ばれそうになったとき、みんなに嘘つきだともわれたくなくて、本当のことにしようと奔走する。転校してきて友人との関係性をなんとかうまくやりたいと考えていたが、東京でやっていたダンスがすてきなきっかけを作り出す。夢をあきらめないで努力すれば、未来への可能性は広がるのだとエールを与えてくれる物語。「どっちでもいい子」のコンビが送る元気になれる物語。</p> <p>2025年10月 978-4-265-84066-3</p>
<p>小学校高学年</p>		
<p>この手はいつか</p> <p>中山 聖子/作 保光 敏将/絵</p> <p>文研出版 1,650円</p>		<p>ある事件をきっかけに、夏休み中、母の実家へ1人で行くことになった真潮(ましろ)。萩焼きという焼き物を焼いている職人のおじいちゃん、現地で知り合った友達、同じアパートの近所のおじいちゃん、様々な人達との関わりの中で前向きな心を取り戻してゆく。</p> <p>心の中で一気に燃え上がった炎を抑えることができず、クラスメイトを殴ってしまった真潮。担任の先生は真潮の母に、その原因が愛情不足にあると諭した。1学期の終業式の日、夜まで仕事で帰らない母を待つ真潮は熱中症になってしまう。目覚めた病院には、母ではなく、長年会っていなかった祖父の姿があった。「母は仕事の研修で大阪にいる。そのうち帰ってくる」。祖父の言葉を嘘だろうと思いつつも、従うしかない真潮は、萩焼きの窯元である山口県萩市の祖父の家で夏休みを過ごすことになって一。</p> <p>2025年2月 978-4-580-82669-4</p>
<p>日下部くんには 日傘が似合う</p> <p>神戸 遙真/作 ぼん豆 /絵</p> <p>あかね書房 1,430円</p>		<p>日下部くんは、フリフリのかわいい日傘をさしている6年生。でもみんな「日下部くんだから」と見守る空気がある。そんな日下部くんと日傘を通して、みんなが少しずつ「本当の自分の気持ち」に気が付いてゆく。</p> <p>みんながちょっと気になっている日下部くんが、ある日、フリフリのかわいい日傘をさしてきた。「日下部くんだから」と見守るうちに、みんなが少しずつ「自分の本当の気持ち」を考えていく…。考えるきっかけがいつかあった自由で楽しい成長物語。高学年おすすめ図書。</p> <p>2025年4月 978-4-251-04493-8</p>
<p>ぼくのシェフ</p> <p>長谷川 まりる/作 西村 ツチカ/絵</p> <p>くもん出版 1,650円</p>		<p>料理をテーマに、ふたりの少年シャルとアズレの友情と食べること、そして命について描いた物語。</p> <p>野間児童文芸賞受賞作『杉森くんを殺すには』の作者がおくる料理と命の物語。作ろう！ふたりで本当においしい料理を。登場する料理のレシピつき。物語に登場する6つの料理が作れる！——シャルがその天才に出会ったのは、あの奇病が国に広がる、2年前のことだった。13歳のシャルは、国いちばんの料理人である父のあとを継ぐために修行をつづけている。あるとき、慈善団体の活動に参加したシャルは、貧民街で暮らす少年・アズレと出会う。アズレのもつ天才的な料理の才能に気づいたシャルは、彼に料理を教えることにするが、ふたりの関係はある日、とうとうに終わってしまう。そして2年後……。</p> <p>2025年7月 978-4-7743-3894-1</p>
<p>中学校</p>		
<p>Garden 8月9日の父をさがして</p> <p>森越 智子/作</p> <p>童心社 1,980円</p>		<p>ぼくには二つの名前がある。父さんの死後、被爆者手帳を見つけたことで、父さんの過去とぼくの名前の秘密が解き明かされていく。8月9日、長崎で起きたこと、その真実を切々と物語る。</p> <p>1945年8月9日。一発の原子爆弾が長崎に落とされた日、12歳の父は中学校での試験を終え、疎開先の隣町へ帰る列車に乗ったことで一命をとりとめた。爆心地から800mの場所にあった中学校は全壊し、同級生の3分の1が帰らぬ人となった。原爆から逃れ、平穏な一生を送ったと思っていた父は、しかし被爆者だった。父の死後、見つかった父の被爆者手帳には、ぼくの知らなかった「あの日」とそこからはじまった父の葛藤の日々が残されていた。被爆地で生き抜いてきた父の思いと、隠し続けられたぼくの名前のひみつ。やがて解き明かされる真実にたどり着いたとき、ぼくは……。長い時を経て、原爆被爆者の言葉にできなかった思いが、今、静かに胸に迫る。</p> <p>2025年6月 978-4-494-02090-4</p>
<p>もしも君の町が ガザだったら</p> <p>高橋 真樹/著</p> <p>ポプラ社 1,980円</p>		<p>現在ガザ地区とイスラエルで起きている問題や、なぜこのようなことが起きたのかという背景をわかりやすく解説している。</p> <p>10代から知っておきたいパレスチナ問題。ガザから世界を見てみると、ちがう景色が見えてくる。占領、封鎖、爆撃、飢餓……。あらゆる人道的危機に苦しみ続けるパレスチナ。ガザやヨルダン川西岸地区に一体何が起きているのか、なぜこんな事態になってしまったのか、私達に何ができるのか。パレスチナの地をめぐる歴史を紐解きながら、約30年にわたってパレスチナに関わってきた著者が小学生にもわかるようにやさしく解説します。親子で読みたいパレスチナ入門書。世界から「無関心」がなくなることを願って刊行しました。</p> <p>2025年7月 978-4-591-18644-2</p>

「北海道指定図書ブックリスト」

(税込価格で表示)

ブックリストへの掲載は、各出版社にその都度必要に応じて許諾申請をしています。

表紙画像とコメントは、e-honサイトから転載しています。
(画像が鮮明でない場合は、メーカーサイトから転載する場合があります)